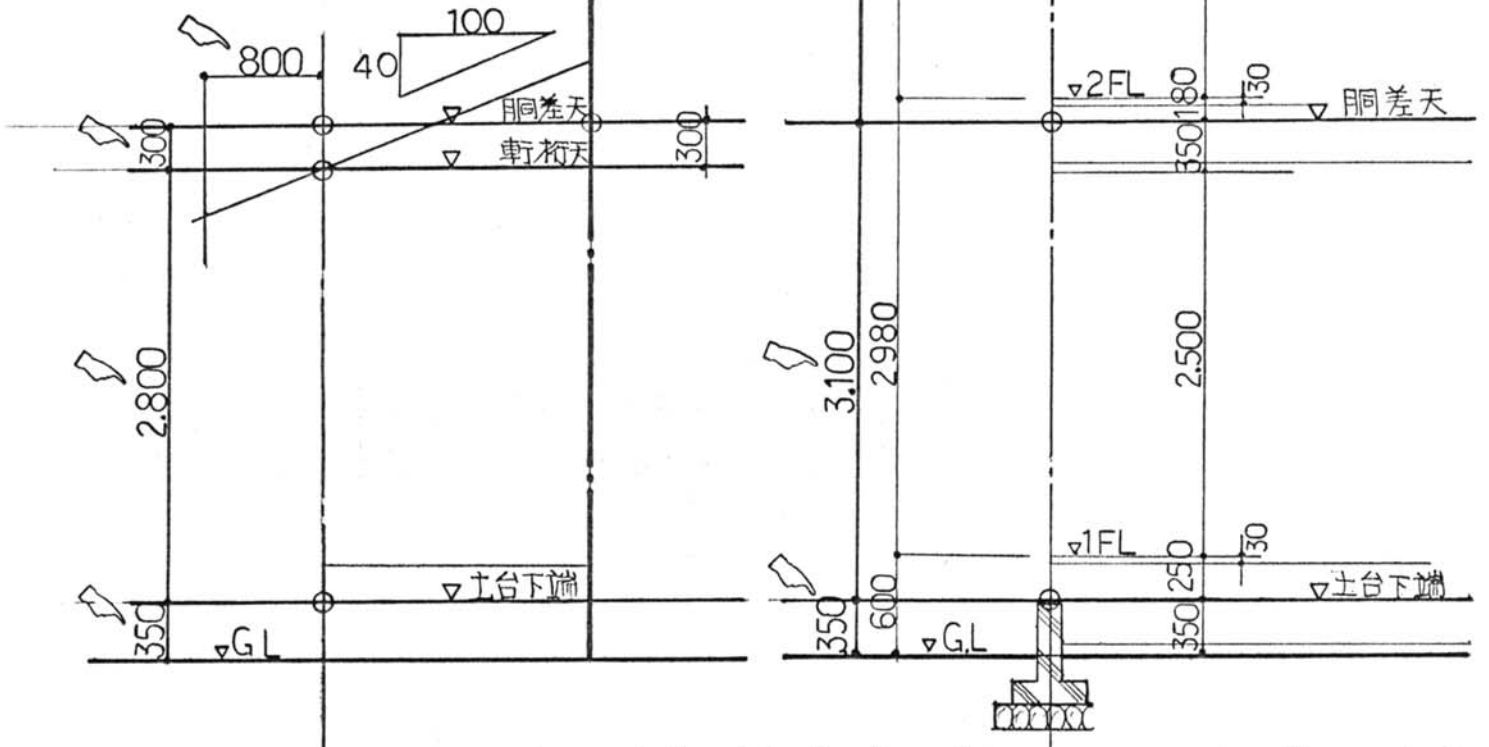


◆矩計図に付いて。～ 現在の矩設図の書き方に付いて。実際施工。軸組加工する。大工(匠)になっての考えかたに配慮されていないのが実状である。

図示の様に必ず必要とする部分 (〇 図か所)



GL. ~ 土台下端. ~ 胴差天端. ~ 軒桁天端. (1階の場合. GL. ~ 土台下端. ~ 軒桁天端. ~ 胴差天端.) の寸法(長さ)を必ず明記すること。 ※(軒の出も明記すること。)

図示程度の図面(必要事項のみ)でもよいから伏図の一部として構造図とすること。加工に携わる大工(匠)さんには理解しやすい。

伏図の始めに各階の柱位置伏図を作成すること。 通し柱の位置・化粧柱などの標示をした伏図とし。通し柱は土台天端. ~ 軒桁下端迄の長さ。各柱は横架材間の長さを記入すること。柱の必要長さ(杓長を加える)が算出しやすい。 無駄をなくす。作業に携わる大工(匠)さんの立場になって。設計図(伏図)を作成する。

◆ 長杓差し(平納差し) ~ 上級では柱上部桁等の仕口け大入れ(面5分ゆえ大入5分以上)長杓差し込栓打ち。普通は長杓差し込栓打ちや両面鉋打ちまたは大釘打ち補強金物取付け。

長杓差(平杓)の加工について。杓・杓穴の墨付けし。杓穴の幅は墨を7~1分位のこして彫込み。墨のこし部分を墨を斜め(深さ1寸迄)に突きとり。厚さは墨を徴少に墨がのこる位に彫込み。杓加工は墨付け墨真にて切り込み。杓先は大面取りとする。

建込(組立)には掛け矢(木づち(大木で長い杓))で2~3回叩いて組立出来る程度に加工する。 (かたすぎず。あまくないこと。簡単にはずせない。)